

### 第3回「情報とシステムの視点からみた組織と社会」研究会 開催報告

研究会主査 川野喜一

- 開催日時 2012年5月9日(水) 18:30~20:40
- 開催場所 法政大学 市ヶ谷キャンパス 新見附校舎 502 教室
- 出席者 25名

#### ■開催概要

日本の農業はTPP対応、高齢化・後継者難、耕作放棄地の増大、自給率低下などの課題を抱えている。農業が抱える課題(安定生産、安定経営、農作物の品質向上)と今後を二つの講演から考える。地域支援型農業で農業の維持・発展や地域活性化を目指す研究・取組みをされている村瀬さんと、農業クラウドをとおして農業法人の農産物の安定供給と経営の安定化、人材育成に取り組んでおられる佐竹さん、お二人の専門家にご講演いただいた。

#### ■講演題目及び講演者

1. 地域支援型農業 (Community Supported Agriculture) と情報システムの活用  
村瀬 博昭 氏 (株式会社NTT データ経営研究所 ソーシャルイノベーション本部)
2. 農業クラウドへの取組み  
佐竹 雄一 氏 (富士通株式会社 ソーシャルクラウド事業開発室)

#### ■講演概要

1. 地域支援型農業と情報システムの活用
  - ・CSAは住民(消費者)が会員となって作付け前に生産者に商品代金を前払いし、収穫時に農作物を受け取る仕組みで、地域住民が地元の農業の維持・発展や新規就農を支援する。
  - ・人(生産者:自立と誇り)と人(消費者:感謝)とを信頼で結びつける社会システム。
  - ・「リスク共有」と「説明責任」:農家は資金繰りの解消、安定収入を得、消費者は安心・安全な農作物(有機農業)に期待。会員への報告(営農方針、生産状況)と対話集会等のコミュニケーションが求められる。
  - ・米国で普及(1万2千)、日本はまだただが有機農業や地域活性化とのつながりで普及、実証実験が行われている。
  - ・会員募集やコミュニケーション・交流活動、地域振興とのつながりなどCSAの普及に、SNSやブログなどICTの果たす役割は大きい。
2. 農業クラウドへの取組み
  - ・2008年から農業プロジェクトに取り組んでいる(実証実験を行いつつ商品化に取り組んでいる)。
  - ・農業生産をICTで支援する実証実験:比較的大規模な企業、法人の農業生産の経営力向上、人材育成、生産技術向上に着目。
  - ・実証実験をとおして農産物の安定供給と農業経営の安定に役立つことがわかった。
  - ・農作業管理クラウド(販売計画、生産計画、作業指示・実績管理、GAP対応、経験・知恵の見える化、センサデータ活用)の事例紹介。
  - ・ITへの抵抗感、機器そのものの使い難さ、事実に基づいた振り返り・判断の重要性の理解不足、経営規模にたいする投資負担、IT活用効果の定量的情報の不足、データ蓄積に時間が掛かるなどの課題があるが、ICTをツール(道具)として使えるところ(楽・便利・時間の節約)につかうことが重要との実感。

#### ■質疑(ディスカッション)

- ・CSAの日本での普及の課題:農家が農協(農作物の販売、資金繰り、営農指導)を介し消費者との直接のつながりを持たない、リスク負担の概念(消費者も生産のリスクを負担するのか)などがある。最近では農協や地方自治体も実証実験に参加するようになってきている。
- ・CSAによる小規模農業維持・発展の可能性、充実した内容の農業クラウドによる大規模農業支援、どちらも日本の農業発展に希望を与える内容。中規模農業(極小規模の集合体)のシステム支援も必要。
- ・農業分野のICTの活用は取組みが遅れている分野だが(工業分野の数十年前のシステム化を彷彿とさせる)、社会で支える農業とICTで支える農業・・・社会システムとして広い視点で考えていくことが必要。

以上